

反核医師ジャーナル

第76号 発行：核戦争に反対する医師の会・愛知
2017年9月25日 (名古屋市昭和区妙見町19-2)
vol.36 No.2 (愛知県保険医会館気付) TEL052-832-1345

核兵器禁止条約採択！



ヒバクシャ国際署名約300万筆をエレン・ホワイト議長に手渡した。左から、和田征子氏（日本被団協事務局次長）、エレン・ホワイト議長、箕牧智之氏（日本被団協代表理事）、中満泉氏（国連軍縮担当上級代表）

7月7日、国連交渉会議で核兵器禁止条約が採択された

第28回反核医師のつどいin東京

～結成30年 被爆の実相に立ち返り、核なき世界を

- とき 11月4日（土）、5日（日）
- ところ 平和と労働センター 全労連会館（東京都文京区湯島2-4-4）

※詳細は5面と同封のチラシをご覧ください。

参加申し込み・問い合わせは「核戦争に反対する医師の会・愛知」
(TEL 052-832-1346 愛知県保険医協会)までご連絡ください。

反核医師の会35周年記念講演会概要

国連交渉会議から見た 核兵器を巡る世界情勢

被爆国日本の課題とは

中村 桂子氏(長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授)

核戦争に反対する医師の会・
愛知は六月十日(土)の午後、

保険医協会伏見会議室で三十五
周年記念講演会を開催した。参
加者は六十二人。講演の要旨を
紹介する。

核兵器をめぐる世界の状況

今、かつてない歴史的な局面
を迎えており。六月十五日から
二ヶ月の国連本部で核兵器
禁止条約交渉会議の第二会期
が行われ、条約が採択される見

考え方は、冷戦期から基本的に
変わっていない。
核兵器は、配備され、いつで
も使える状態にするための実験・
メンテナンスなどが必要とされ
る。こうした費用に加え、九つ
の核保有国全てが核兵器の近代
化を進めており、なかでも米国
は今後三十年間で一兆ドル(約
百二十兆円)の核兵器近代化の
ための支出を見込んでいる。ま
た、原発に寿命があるように、
核兵器にも寿命がある。冷戦時
に保有した核兵器の老朽化にあ
たり廃棄するか、更新するかの
決断が今後数十年間に渡って行
われていく現実がある。

五年前、核兵器が実際に使わ
れた場合の影響について、科学
的証拠をもとに分析した「核の
飢餓」という報告書が出された。
報告書では、例えばインド・パ
キスタン間など、局地的な核使

用であっても、大規模かつ長期
の賛成で採択・成立)。

現在、地球上には一万四千九
百発の核弾頭が存在する。冷戦
時の最大約七万発が、三十年間
で数としては減少してきた。し
かし、核保有国の核兵器がなけ
れば国の安全を守れないという
考え方は、冷戦期から基本的に
変わっていない。

用であっても、大規模かつ長期
的な気候変動によって「核の冬」
が引き起こされ、地球的規模の
影響が出ることが指摘されている。

これまで唯一、核保有国に核
兵器を迫ってきた枠組みがNPT

(核不拡散条約)だ。重要な
条約であるが、核大国(米・露・
仏・中・英)には当面核保有を
認めているという点で非常に不
平等な条約もある。

NPT第六条で核軍縮を定め
ているが、条文の「ディスアーメント(disarmament)」は、実
際は「軍備撤廃」の意味に近く、
これは核兵器をゼロにする努力

まで進められた。

禁止条約に向けた国際的努力

これまで唯一、核保有国に核
兵器を迫ってきた枠組みがNPT

が引き起こされ、地球的規模の
影響が出ることが指摘されている。
こうした事実が明らかにされる
に伴い、核を持たない国も無関
係ではないという認識が広がっ
てきた。

飢餓で少なくとも二十億人に影
響が出ることが指摘されている。
これまで唯一、核保有国に核
兵器を迫ってきた枠組みがNPT

が、現実に核兵器が使われそうに
なった事例はいくつも報告され
ている。一九七九年に米国の核
ミサイル基地で、核攻撃を想定
した訓練用テープの取り出し忘
れのために基地内に警報が鳴り
響き、報復攻撃が準備されたこ
と。一九八三年には、ソ連で米
国からの核攻撃の警報が鳴った
が、現場の一兵士の判断で報復
攻撃の準備は行われなかつた。

この件は後にコンピューターの
誤作動であったことが判明した。
最近ではサイバーテロが核兵器
使用の引き金となる恐れが指摘
されている。

しかし、第六条には期限や具
体的な目標が示されていないた
め、保有国が主導する核廃絶の
アプローチは遅々として進んで
こなかつた。そもそも、核兵器
の存在価値を前提とした「軍備
管理・安全保障アプローチ」で
は、廃絶は遠い未来であつた。

核兵器の是非を議論する際に、
「人道面は大事だが、安全保障
のためには必要」といった人道
問題と安全保障問題を対立して
捉える議論がある。しかし、一
発の核爆発でも壊滅的な被害を
もたらすことを現実的に考えれ



中村 桂子氏

長崎大学核兵器廃絶研究センター
(RECNA) 准教授

1972年神奈川県生まれ。2001年、米モントレー国際大学大学院修了(国際政策研究)。2012年3月までは特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長として、核問題に取り組む。2012年4月のRECNA開設にともない、長崎大学に赴任。専門は核軍縮。2013年以降、被爆地ナガサキとして次世代を担う若者を育成する「ナガサキ・ユース代表団」の企画運営に携わる。共訳書に「核兵器をめぐる5つの神話」(法律文化社、2016年)。

ば核兵器が存在することが人類の安全保障に寄与しないことは明白であり、この対立は成立しない。

一方、核兵器禁止条約の交渉

に至るまでの過程は、最近の五、六年で急速に進展してきた。核を持たない国々が、「人道アプローチ」に舵を切ったことが世界の流れを変える大きな転換点となつた。これまで、非人道性を理由に生物・化学兵器や対人地雷、クラスター弾など、様々な兵器が国際条約で禁止されてきた。人道アプローチは、この流れに核兵器も加えようというもので、核兵器禁止条約を作るうえでの土台となっている。

二〇一〇年にはNPT再検討会議の最終文書で、核兵器の非人道性について初めて言及されることとなつた。これらを背景に、核兵器の人道上の影響について、科学的・客観的な証拠を出して議論を行うための国際会議が二〇一三年、二〇一四年にかけて三度開かれた。核兵器の非人道性を訴える被爆者の発言は世界で大きな意味を持つてきただ。この議論の積み重ねは、被爆者の言葉を事実情報に基づいて補強する重要な努力でもあつた。

こうした努力を経て、昨年十月に国連総会の第一委員会で「核史的な決議が、百二十三カ国の賛成で採択された。

核軍縮議論の民主化

米国をはじめとする核保有国は、非人道性の議論を当初は軽視していた。ところが、非人道性を訴える国が徐々に多数派となつていくことに焦りを感じ始めた。米国大使は、国連で「我々はこの決議に反対する。皆さんと同じ行動をとることを望む」と恫喝し、NATO加盟国、オーストラリア、日本、韓国など核の傘に依存する国にも決議に反対するよう圧力をかけた。

この間の状況は、私たち日本人が核を巡つてどのように考えている力に気づき、行動を始めた。核軍縮議論のなかでの民主化が進んでいると感じる。

三月の交渉会議・第一会期で感じたのは、参加百三十カ国のなかで細かな意見の違いはあるが、「力強いシンプルな条約を、できるだけ早期に作り上げたい」とだ。

この熱気あふれる交渉会議の初日に、日本の高見沢軍縮大使は「本件交渉会議に建設的かつ誠実に参加することは困難」という極めて異質な発言を行つた。議場の空気が一瞬ヒヤッとしたのを感じた。

また、米国を中心とした核保有国と核の傘に依存するいくつのかの国が、議場の外の小さな会見場で交渉に反対する抗議行動を行つた。禁止条約には意味がないという主張をしたのだが、

メキシコの国連大使の「私は長年、『核保有国がいなければ何もできない』という考えにとらわれてきた。だが、それは保有国に力を与えることで、まさに『現状維持』だった」といって補強する重要な努力でもあつた。

こうした努力を経て、昨年十月に国連総会の第一委員会で「核史的な決議が、百二十三カ国の賛成で採択された。

日本の課題とは

この間の状況は、私たち日本人が核を巡つてどのように考えているべきかを鏡のように浮き彫りにしている。

昨年の交渉会議を開始する決議に日本政府は反対投票した。これまで日本は、核兵器の禁止や、何らかの法的制限の提案に對して、被爆国としての体面と、核同盟国として米国の機嫌を損ねられないという本質の、二つの側面の間で棄権の立場をとつてきた。今回の反対投票は、露骨に米国との核同盟国という本質を重視したものであり、とても残念に受け止めている。

共同通信社の世論調査では「禁止条約交渉を開始する決議に反対した政府を支持しますか」という質問に対し、「支持する」四五・七%、「支持しない」四六・一%と、国内で世論が二分されたことも忘れてはならない事実だ。

日本と核保有国は、禁止条約を無きものにしないためにも、被爆国日本の私達が核兵器禁止条約の価値や意義を説得力をもつて説明し、広げられるようになることが求められている。

原水爆禁止二〇一七年世界大会・長崎

禁止条約を力に核兵器の

ない世界の実現を

被爆七十二年の今年、国連で採択された核兵器禁止条約の下、今年も被爆地広島・長崎で、「核兵器禁止条約を力に核兵器のない平和で公正な世界の実現を」をテーマに、原水爆禁止二〇一七年世界大会が八月三日から九日に開催された。長崎大会は、長崎市民会館体育館などで開催され、七日の開会式には、中満泉国連軍縮担当上級代表や二十二カ国九十五人の海外代表を含め、約六千人が参加。九日の閉会式には被爆者や遺族、市民及び国連・各国政府代表ら約七千人が参加した。核戦争に対する医師の会・愛知からは、坂本龍雄会長と早川純午会員を派遣した。

今大会は七月七日に国連で核兵器禁止条約が採択されたことを受けて、同条約を心から歓迎するとともに、同条約に背を向ける安倍政権を解散総選挙に追い込み、核兵器保有国と同盟国の姿勢を変えていく決意を固め合う大会となつた。

核兵器禁止条約は国連加盟国の約三分の二にある百二十二カ国の賛成で採択された。核兵器の非人道性に焦点を置き、「核

兵器使用による被害者（ヒバクシャ）と核実験被害者にもたらされた容認しがたい苦難と損害に留意」と言及。加えて核兵器の開発、実験、製造、生産、取得、保有、貯蔵のみでなく、使用とそれによる威嚇も禁止しております。核兵器を保有する根拠とされている「核抑止力」論を否定している。核兵器完全廃絶を実現するためには、核兵器保有国と同盟国が同条約に参加す



七日の開会式では、世界大

会議団の安斎晋郎氏が、「私たちは、核兵器禁止条約というパワフルな条約を手に入れた。核兵器保有国や日本などを参加させて、パートナクトにしていこう」と報告。また、中満泉国連上級代表は、「条約の核心は核兵器を否定し、それを国際法として成文化した点にある」と主張し、「核兵器禁止条約は、核廃絶への重要な道だが、唯一の道ではない」として、「二〇二〇年の核不拡散条約（NPT）運用再検討会議でどのようなステップを踏めるか、真剣に考えていかなければならない」と述べた。また、田上富久長崎市長が「条約を支持する声をこれから多くの人が挙げることの必要がある。ここに市民社会の責任がある」と発言した。

一の戦争被爆国であり、核兵器保有国と同盟関係にある日本の結果たすべき役割は大きいが、すでに安倍政権は同条約への不参加を表明している。大会を通じて参加者は、日本国内で同条約への参加を求める世論を広げる

九日の閉会式では、核兵器禁止条約交渉会議を牽引した、エレン・ホワイト議長からの「私の信念は揺らぐことはない」というメッセージが紹介されると、大きな拍手が送られた。長崎県保険医協会の本田孝也会長は、幕を閉じた。

会議団の安斎晋郎氏が、「私たちは、核兵器禁止条約と報告。「放射能の恐怖は今も被爆者を苦しめ続けている」と指摘した。また、保団連の「開業医宣言」の「平和の希求」の中、人命を守る医師は戦争に反対し、核兵器廃絶を訴えるとされていることを紹介し、「ともに核兵器のない世界を目指そう」と訴えた。被爆者からは、松谷英子氏が「核兵器は悪魔の兵器。長崎は永遠に最後の被爆地でなければならない」と発言した。

満場の拍手で採択された長崎決議は、すべての国に条約への参加を求め、草の根から多彩な行動をつなぐ「平和の波」行動を提倡。それを起点に、禁止条約を核兵器廃絶へとつなぐ、世論と運動の巨大なうねりを作りだしていくことが確認された。また決議は、「ヒバクシャ国際署名」の役割も強調し、自治体ぐるみ、地域ぐるみで発展させようとよびかけた。最後に、日本原水協の安井正和事務局長が、「核兵器禁止条約を力に、被爆国日本から核兵器廃絶の世論と運動を大きく広げよう」と訴え、幕を閉じた。

ヒバクシャ署名を広げ 条約をパーソナクトに

会員 早川 純午

ゆっくり台風が進んだ隙に、
名古屋から無事に長崎に着くこ
とができた。

大会はじめに安斎育郎氏は、
被ばく七十二年目に国連で採択
された核兵器禁止条約の説明に、
数字72が2の3乗×3の2乗
で示される最小のアキレス数だ
と説明された。アキレス数は多
数—powerful No.だが累乗数||
perfect No.ではない。今回の禁止
条約も同様に強力ではあるが完
全ではないと説明し、完全なも
のにしていく活動が求められて
いると訴えられた。

中満泉国連事務次長（軍縮担
当上級代表）は、核兵器禁止条
約は核軍縮の一部である、実行
のために追加的手段が必要、N
P T 6条を補完するものなど述べた。
確かに、完璧でないが、セツ
コ・サーローさんの「核兵器禁
止がモラルであったが、今法律
になつた」との言葉は私の心に

強く響くものだった。

日本政府の条約に対するサボタ
ージュへの厳しい批判や、韓國
の方の体験の報告などには大き
な拍手が送られた。

今回の条約は、戦後の日本國
憲法が作られる過程によく似て
いると思われた。日本における
被爆者の置かれた歴史、被爆者
の運動を基軸にして、世界中に
被爆の実相が伝わり、世界中の

様々な優れた実践が条約に反映
されたものだ。重要なのは、核
を持つ大国ではなく、核の禁止
を憲法にもつオーストリアなど
世界の七〇%弱の国々により採
決されたことと思う。これから、
傘の国々、とりわけ被爆国であ
りながら、批准しないと表明し
た安倍内閣に対し、ヒバクシャ
国際署名により批准を求める全
世界的運動の起点に立つたと強
く思った。

（六弘法）に参加した。落下地
点（原爆は自然に落下したので
なく、投下されたのだから正
しい言葉でない）の公園に集合
した。原爆空中爆発により、強
烈な熱線、風圧、上昇気流によ
り破壊された、土地、建物など
を見つ、火災、黒い雨のなか、
多くのひとびとが、この急な坂
を必死に登つただろうと思いを
馳せて、穴弘法のお寺を目指
した。このお寺には湧水がありそ
の水を飲み、ホッとし亡くなっ
ていったと住職の話を伺った。
山の木々はほとんど消失したと
言うが今は鬱蒼と木々がしげつ
ている。

帰りは浦上天主堂に向かう。
隠れキリストンの土地であり、
お墓の中を見ていくと八月九日
に亡くなつた一家の名前が連なつ
た墓誌を見る。（NHK報道では、
被差別部落がここにあり、複雑
な差別があり、被曝だけでない
問題があつたようだ）

先回も、動く分科会佐世保基

地に参加したが、このように現
地で歩き回り追体験として考え
るのは私には一番いい企画でし
た。

お申し込みは
愛知県保険医協会
まで

第28回反核医師のつどいin東京

～結成30年 被爆の実相に立ち返り、核なき世界を～

- とき 11月4日（土）、5日（日）
- ところ 平和と労働センター 全労連会館（東京都文京区湯島2-4-4）

核戦争に反対する医師の会結成30年、また核兵器禁止条約採択の年にふさわしい企画を用意しています。ぜひご参加ください。

11月4日（土）… 14:00～20:30

- ・反核医師の会30年のあゆみ
(中川武夫代表世話人)

シンポジウム

「核兵器禁止条約から核兵器の廃絶を」

藤森俊希氏（日本被団協事務局次長）、川崎
哲氏（ピースボート共同代表）、林田光弘氏
(ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー)
・IPP NWヨーク大会報告

11月5日（日）… 9:00～12:00

第一分科会

「ヒバクシャは語る、ヒバクシャから学ぶ」
児玉三智子さん ほか

第二分科会

「避難指示解除後の福島は今」
松本純医師 ほか

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

ノーモア・ヒバクシャ訴訟 援護法は要医療性を求めていない

七月四日（火）午後、名古屋高等裁判所でノーモア・ヒバクシャ訴訟の第二回弁論が行われ、約六十人が傍聴に参加。反核医師の会から中川武夫事務局長、土井敏彦事務局次長が参加した。

この裁判は、国が原爆症認定申請を却下したのは不當であるとして、被爆者が提訴している



七月四日（火）午後、名古屋高等裁判所でノーモア・ヒバクシャ訴訟の第二回弁論が行われ、約六十人が傍聴に参加。反核医師の会から中川武夫事務局長、土井敏彦事務局次長が参加した。

この裁判は、国が原爆症認定申請を却下したのは不當であるとして、被爆者が提訴している

もので、昨年九月に地裁で判決が出された。原告四人のうち二人は原爆症と認められた。これまでの原爆症の認定は、申請疾患の放射線起因性と、要医療性の両方の要件を満たす必要があるとされてきた。他二人については放射線起因性を認めながら要医療性を認めなかつた。高裁判ではこの要医療性について争われ、今回が結審の予定であった。

しかし、裁判長から「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」は、そもそも要医療性を原爆症認定の要件としているのではないか、という疑問が出された。

これを受け、急遽結審の期日を十月十二日（木）に延期し、弁論が行われることとなつた。

医師の会では、被爆者を救済する判断が下されるよう、支援を続けていく。



平井 長年氏

被爆者相談会に講師派遣

脳卒中の予防で大切なことは

核戦争に反対する医師の会・愛知は六月二十五日（日）午後、愛知県原水被災者の会（愛友会）の依頼で、名古屋都市センター（名古屋市中区）で開催された被爆者相談会の健康講座に講師派遣の協力を行った。参加者は十一人。

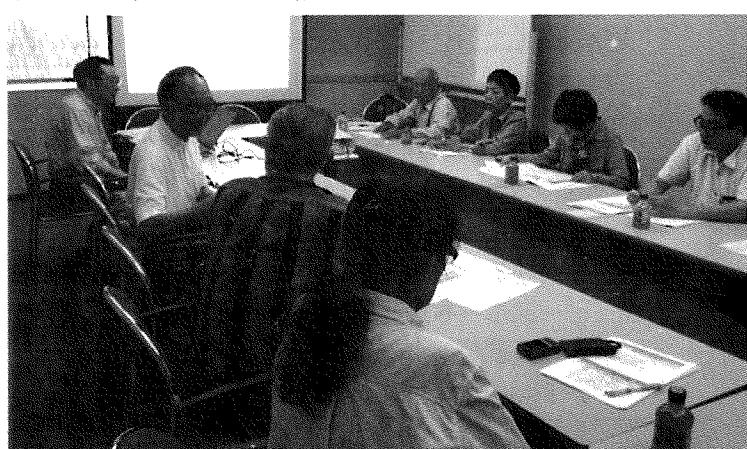
この相談会は毎年愛友会が愛知県からの委託で開催しており、最初に被爆者に対する各種手当について愛知県の担当者が説明した。

健康講座では、平井長年会員（尾張健友会千秋病院）が「脳卒中の予防」をテーマに講話した。まず平井氏

は、脳卒中を疑う症状について紹介した。脳卒中は何の前触れもなく突然発症することが特徴

で、突然の脱力、顔面や上下肢の麻痺、突然言葉が出てこなくなる、理解できなくなる等、具体例を挙げて説明をした。

脳卒中を予防するために、高血圧や糖尿病、不整脈などについては放っておらずに治療することや、アルコールや塩分は控えめにし、体力に合った運動を続けることなど、脳卒中予防



十カ条を紹介し、脳ドックの検査についても説明した。

参加者からは最近頭痛が続いているが大丈夫か、など質問が相次ぎ、講師が丁寧に対応した。

この他、六月十日（土）午後には浅海嘉夫会話人（北医療生協北病院）が名古屋都市センターで、六月二十五日（日）午前には土井敏彦事務局次長（南医療生協かなめ病院）が岡崎竜美丘会館で健康講座の講師を担当し



ヒバクシャ国際署名の推進をする「ヒバクシャ国際署名をすすめる愛知県民の会」(以下愛知県民の会)が設立された。七

月三十日(日)午後、イーブルなごやで設立の集いが行われ、百二十人が参加した。

愛知県民の会の呼びかけ人は、名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長の益川敏英氏、元中国大使の丹羽宇一郎氏、核戦争に反対する医師の会・愛知代表の浅野晴義氏、保険医協会理事長の荻野高敏氏や、愛知県民主医療機関連合会会長の早川純午氏、愛知淑徳大学教授で元愛知医科大学学長の稻福繁氏ら二十二氏が名を連ねている。設立の集いには七氏が参加した。

基調講演は、「ヒバクシャ国際署名」推進連絡会の林田光弘キヤンペーンリーダーが講演した。

私たちがやるべきことは核兵器をなくす世論をつくるため「被爆体験や被爆者の声を世界に伝える」とこととした。そのため使う最良のツールがヒバクシャ国際署名だと訴えた。

核兵器禁止条約採択

七月七日、百二十二カ国の賛成で核兵器禁止条約が採択され、九月二十日には国連本部で署名式が行われた。核兵器禁止条約は核兵器の開発や保有、使用の

※署名用紙を返送、追加でご注文いただける場合は下記まで

<http://hibakusha-appeal.net/>

ヒバクシャ国際署名をすすめる 愛知県民の会が設立

世論で後押しして、 核兵器禁止条約を結ばせよう

月三十日(日)午後、イーブルなごやで設立の集いが行われ、百二十人が参加した。

愛知県民の会の呼びかけ人は、名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長の益川敏英氏、元中国大使の丹羽宇一郎氏、核戦争に反対する医師の会・愛知代表の浅野晴義氏、保険医協会理事長の荻野高敏氏や、愛知県民主医療機関連合会会長の早川純午氏、愛知淑徳大学教授で元愛知医科大学学長の稻福繁氏ら二十二氏が名を連ねている。設立の集いには七氏が参加した。

基調講演は、「ヒバクシャ国際署名」推進連絡会の林田光弘キヤンペーンリーダーが講演した。

ヒバクシャ国際署名はすべての国に核兵器を禁止し廃絶するの国に核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを求めるもので、核兵器禁止条約が成立した今後も引き続き取り組みが必要だ。

安倍首相は八月六日、被爆者団体との面談後の記者会見で、「核兵器禁止条約に署名、批准はない」と明言した。世界の流れに背く首相の姿勢は、これから条約が発効すればますます厳しい批判にさらされることはない。日本政府には唯一の被爆国

署名にご協力を

ヒバクシャ国際署名は二〇二〇年まで毎年国連に提出する。

六月には約三百万の署名を国連

の核兵器禁止条約交渉会議の場

で、エレン・ホワイト議長に提

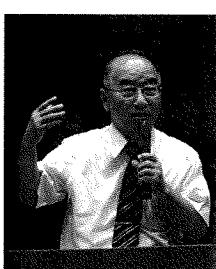
出出した。

ヒバクシャ国際署名はすべての国に核兵器を禁止し廃絶するの国に核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを求めるもので、核兵器禁止条約が成立した今後も引き続き取り組みが必要だ。

安倍首相は八月六日、被爆者団体との面談後の記者会見で、「核兵器禁止条約に署名、批准はない」と明言した。世界の流れに背く首相の姿勢は、これから条約が発効すればますます厳しい批判にさらされることはない。日本政府には唯一の被爆国

みなさんと一緒に核の被害を考えたい 呼びかけ人 稲福 繁氏

(愛知淑徳大学教授・元愛知医科大学学長)



40年前に学会で広島を訪れ、広島平和記念資料館を見に行つた。焼けただれた人の写真などを見て非常にショックを受けた。その日はご飯ものどを通らず、夜も眠れなかつたことを覚えている。

私は沖縄出身で、家は現在の普天間基地のあたりにあった。沖縄戦では沖縄県民の4人に1人が亡くなつておる、遺骨がごろごろ出てくるようなところで、悲惨な思いをした。しかし、広島、長崎は口では言い表せないほどもっと悲惨な状態だと知り、40年間ずっと気になつていて。私自身が経験したような戦後の混乱期は二度とごめんだ。呼びかけ人になったことをきっかけに、みなさんと一緒に核の被害についてもう一度考え、勉強したい。

められる。

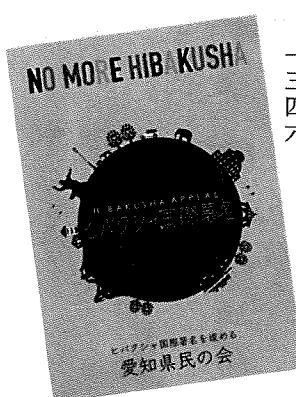
核保有国や核の傘の下にある

お願いします。

【連絡先】

国々すべてが核兵器禁止条約を結ぶよう後押しするヒバクシャ国際署名に引き続きご協力を

愛知県保険医協会・反核医師の会担当 電話 〇五二・八三三・一三四六



愛知県民の会のリーフを同封しました。ぜひ「会」に賛同ください。

原爆と人間パネル展

「次世代と描く原爆の絵」で 被爆の実相伝える



パネルに見入る人々（金山総合駅コンコース）

核戦争に反対する医師の会・愛知も参加する被爆者支援ネットと愛知県原水爆被災者の会は、八月十九日（土）、二十日（日）の二日間、金山総合駅コンコース・イベント会場で「原爆と人間」パネル展を開催した。

同企画は二〇一四年から毎年八月に行われている。今年は七月・イ・ベント会場で「原爆と人間」パネル展を開催した。

被爆者の証言を基に描いた「原爆の絵」も展示した。生徒らは見たことのない光景を描く難しさや葛藤を抱えながら、約一年かけて被爆者から話を聞き取り、「原爆の絵」を完成させてきた。

会場では高校生らの目を引く絵に、若い人から高齢者まで幅広い年齢の人々が足を止め、両日で約六千人がパネルや「原爆の絵」に見入った。

感想ノートには、「高校生の生々しい『原爆の絵』に心を打たれた」という感想や、「早く世界から核兵器をなくさなければいけない」といった、切に平和を願う声が多数寄せられた。

月七日に核兵器禁止条約が採択され、日本政府の参加を求める世論を盛り上げるためにも、多くの市民に被爆の実相を伝えよう企画した。

今回は原爆と人間パネルに加え、広島市立基町高校の生徒が被爆者の証言を基に描いた「原爆の絵」も展示した。生徒らは

福島原発事故による愛知県への避難者は、今なお約千人を数える。愛知県が設置した被災者支援センターと愛知県民主医療機関連合会共催の交流相談会が

六月十一日（日）に北病院（名古屋市北区）と関連施設で取り組まれた。病院での甲状腺エコー検診には福島県や宮城県・関東

原発事故避難者への健康相談などに協力

甲状腺のミニ学習会も開催



早川 純午氏



相談に応じる小林氏

どこで相談が相次ぎ、「診察が必要となり、今後治療を

していこ

会費納入のお願い

■「核戦争に反対する医師の会」 三菱東京UFJ銀行・八事支店(普)010-8297

二〇一七年度の会費（五千円）の納入をお願い致します。
納入に際しましては、同封の郵便振替用紙をご利用頂くか、左記の銀行口座あてにお振り込みくださいますようお願い致します。

※二〇一六年度の会費が未納の方には、振込用紙に二〇一六年度会費と記載させていただきましたのであわせてお振り込み願います。ご不明な点などございましたら、左記あてにお問い合わせ下さい。

☎ 052-832-1346

各県からの避難者が四十九人、すまいるハートビルでの交流相談会には、五十四人が参加した。小林武会員が協力し、医師の他にも臨床心理士や在宅保健師、弁護士なども協力して、避難生活で抱える生活や仕事・健康面での相談に応じた。

耳鼻咽喉科の小林氏のもとに愛民医連会長（反核医師の会会員）が「甲状腺について知ろう」とミニ学習講演を行い、医連が行った甲状腺検診結果を交えて解説した。

反核医師の会・愛知 抗議

- ▼ 「核兵器禁止条約」交渉不参加に強く抗議する（二〇一七年三月三十日）
- ▼ 北朝鮮の核実験に強く抗議する（二〇一七年九月五日）